

報道機関各位

公益社団法人 京都勤労者学園  
学園長 杉山 雅人  
(公印省略)

## 「勤労者生活とリモートワーク、オンライン社会についての意識調査」報告冊子の送付について

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から京都勤労者学園の運営に、ご指導・ご協力をいただいておりますことに御礼申し上げます。

本学園では、毎年、京都府の援助を受けて、連合京都、京都総評をはじめとした府内労働団体・組合の組合員等を対象にテーマを決めて各種のアンケート調査を実施しています。

今回の調査は、「勤労者生活とリモートワーク、オンライン社会についての意識」をテーマに、急激なオンライン化が進む中での仕事と生活に与える影響や現状と、今後求められることを探りました。

本冊子は、その結果をまとめたものであり、労働団体・組合はもとより、企業や行政機関などでご活用いただければ幸いです。

なお、集計・分析及び監修は、NPO法人京都社会労働問題研究所の協力をいただいております。

### 調査結果の概要

#### 1 調査対象： 京都府内に就労先を持つ労働組合員（回答者 1,966 人中 ：男性 79.4%、女性 17.3%）

#### 2 オンライン会議とリモート(在宅)ワーク

オンライン会議を 6 割超の人が経験済みで、特にオンライン化が「進んだ」職場では 9 割以上に上る。「リモート(在宅)ワーク」は全体で 44.9%で、オンライン化の「進んだ」職場では 74.7%であった。インターネット設備は、「社内 Wi-Fi・LAN」が 6 割以上で調い、オンライン会議用の設備や機材もかなり普及している。特に、「通信・情報」や「教育・学習支援」の職場での設備環境は充実している。自宅における設備は「Wi-Fi・LAN」が最も多く 86.1%に達し、「スマホ」の普及率も高い。

#### 3 オンライン化に対する評価

オンライン化が「進んだ」職場では、仕事に関連して「通勤時間が不要/短縮」7 割、「コロナの感染リスクが減った」等、6 割弱の良い評価がみられるものの、「仕事がかどる」「家事と仕事の両立」などは低い評価になっている。

生活面で「よかったこと」は「余暇時間が増えた」が 42.3%あるが、「家族とのコミュニケーションが増えた」(24.2%)など、総じて、仕事面の「よかったこと」の指摘率よりも評価は低かった。「困ったこと・不満な点」は、仕事面で、「上司や部下と会ってゆっくり話す機会がない」が最も多く 27.1%、次いで「業務の性格上、在宅ワークが難しい」(20.9%)などであった。無回答も多く、仕事面では評価しにくいと推察された。心身の健康面への影響については、オンライン化が進んだ職場では「筋力が衰え足腰が弱りやすい」(40.5%)、「目が疲れる」(35.1%)、「腰痛になりやすい」(33.4%)、「仕事と生活の区別やメリハリがつけにくい」(31.8%)。健康面でかなりのマイナス影響が指摘されている。

#### 4 職場と行政への要望

職場に対しては、「Wi-Fi 等の毎月の費用補助」(35.8%)、「リモート作業用の PC の貸与」(34.5%)、「光熱費の補助」(31.6%)などであった。行政に対しては、「企業へのリモートワーク整備費用の支援枠拡大」(39.5%)、「ネット関連業者に対するセキュリティの強化指導」(34.2%)、「経済的に厳しい家庭へのネット代金補助などオンライン化支援」(32.9%)などであった。

以上から、「リモートワーク」「テレワーク」「オンライン会議」等が急速に取り入れられる傾向にあるが、取り入れることが困難な職場もまだまだ多くあり、二極化している現状が見られる。

オンライン化が進む職場では、1 心身の健康面への影響、2 技術的環境的条件の費用負担、3 仕事にかかわる時間が長くなり、労働時間短縮の傾向に反する等の課題が見られ、今後の解決が急がれる結果であった。